

ADHDの特性解説の手引き ver.1

特 性	特性解説	指導・支援	
コミュニケーション・社会性の特徴	受容コミュニケーションの特性 言語指示の理解の困難さ、字義どおり理解する、言語指示を整理してつかむことができない など	<ul style="list-style-type: none"> 本人の理解にあわせた言語や視覚的な情報で伝える 本人が情報に注意を向けていることを確認しながら情報を伝える（必要に応じて注意喚起する） ゴールイメージ（完成イメージ）を先に提示し、確認する 情報を整理して伝える ・指示を明瞭化する 情報確認を習慣化する 	
	表出コミュニケーションの特性 無言語、エコーリア※、声の調子やリズム、意思交換の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じた表出コミュニケーションの内容をリストなどにして事前や事後に確認する 機能、文脈（般化）の課題は機会を作り習慣にする 適切ではない言葉に、過剰に反応しないで、本来の本人の伝えたい内容をモデルしたり、落ち着いている状況で整理する 	
	社会性・対人関係の特性 一人で行くことを好む、アイコンタクトやジョイントアテンション、セオリ・オフ・マインド※の困難さ、自発的にかかわりをもつことの困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 注意・注目している部分、満足したい部分を優先させるために、周囲の社会的な状況をつかむことが難しい 上記の理由により、周囲の状況に応じた社会的な振る舞い方が難しい場合がある 上記の理由により、相手の考え方、イメージに注目できないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な活動の事前・事後に、目的や見通し、約束などを確認する 習慣を活用する 周囲の人の考え方は、注目できる時間に整理する 周囲の状況提示の前に本人のイメージを確認する 本人の興味関心を活用して機会を設定する 本人にあった社会的な規模と段階の設定
全体よりも細部に注目する特性	転導性・衝動性 注意・注目の特性 転導的・衝動的な行動、切り替えの困難さ注目することの困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の状況よりも、自分の興味関心や感情、満足する状況を優先して、必要な情報に注目できない場合がある 不注意：必要な部分への注目、その持続の困難さ。忘れ物があったり、物を無くしたり、うっかりミスが続いたりすることがある 多動性：ある一定の間、又は常に動いている様子が見られる 衝動性：一度強く注目すると、止めることができない状態がある。他の部分に注目することが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 習慣を活用する 影響を受けている刺激・情報の統制する 終わりりと次の活動を提示する 活動を明確に指示する 活動の指示や材料を明瞭化する 満足できる状況（関心の達成や感情の解消）を個別化して生活の中に組み込む 多動的な活動、瞬発的な活動を保障する
	時間整理統合の特性 日程の計画や調整、活動や手順の調整、実行機能の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心、やりたいことなどを後回しにすることが難しい 自分の怒りなどの感情を後回しにして、自分で切り替えたりすることが難しい 上記のことにより、生活全般を意識して見通しをもって行動したり予定を立てたりすることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 満足できる状況（関心の達成や感情の解消）を個別化して生活の中に組み込む 本人にとってシンプルな仕組みで設定する 日課や活動の指示の確認を習慣化する 活動の目的、内容、約束などを事前に予告する 終わりりと次の活動を提示する 日課やいくつかの活動、手順などを視覚的に提示する
	空間整理統合の特性 自分の位置や材料や道具の位置の調整、1つ場所の多目的利用の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ち（関心や怒りなど）に強く引っ張られて、周囲の状況にあわせた、物や道具、自分の場所の配置ができないことがある 	<ul style="list-style-type: none"> 活動ことこの空間の使い方を事前に予告する 道具や材料は本人にとってシンプルな仕組みで設定する 習慣を活用する 境界を明確にする 材料や道具の置き場所を指示する
	変化の対応の特性 場所、物、人、予定、習慣の変化の不安・抵抗、強迫的な行動、ルーティンの必要性など	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味関心や満足する事象が、変化することに強い抵抗が見られることがある 習慣化した内容に引っ張られることもある。適切ではない習慣を修正することが難しい場合がある 長い時間の自分の満足（関心や怒りなど）を続けることに依存的になる場合がある。 ※1 	<ul style="list-style-type: none"> 変更があることを事前に予告する 変更を計画的に入れて習慣化する 日課や活動の変更を本人にあわせて伝える 本人のイメージを確認して、変更を整理する
	関係理解の困難さ 関連づけしすぎ、関連づけが難しい、自己流の解釈、字義どおりの解釈、絵などを具体的にとりすぎる	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ち（関心や怒りなど）に強く引っ張られて、本来の意味とは違った解釈がおこる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 本人のイメージから先に確認する 本人にあわせた具体的に理解できる内容の指示で伝える 意味を理解するためのステップが必要である 本人にあわせて表や図で整理して伝える
	般化の特性 習得したスキルや人や物への対応を他の場面、違う文脈で状態が変わる。材料・場面・指導者が変わったときに課題を遂行できないなど	<ul style="list-style-type: none"> 関心によって満足している状況と、怒りなどの感情の状況、通常の状況が、まるで別人のような言動、思考を持つことがある。 ※2 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からのコミュニケーション、社会的な振る舞い方、感情のコントロールの習慣を積み重ねる
	記憶の維持の特性 短期記憶・作業記憶※などの維持の困難さなど	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ち（関心や怒りなど）に強く引っ張られて、指示されたことを忘れてたり、部分的だったりする 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあわせた活動（動作）の距離（長さ）、動線（位置）を工夫する 記憶を補つ視覚的な指示（メモ）を準備する
長期記憶の特性 長期に脳に維持される記憶、経験した記憶が消せない特性など	<ul style="list-style-type: none"> 失敗経験の積み重ねのイメージが続くことにより、失敗の繰り返し、怒りの感情の繰り返しが起こることがある。突然、過去のマイナスイメージや感情が現れたり、切り替えが難しくなることがある 	<ul style="list-style-type: none"> 成功体験できるように設定する ゴールイメージ（成功イメージ）を先に伝える できている部分で誉める 成功できるように支援者が黒子でサポートする 	
感覚の特異性 視覚刺激、聴覚刺激、味覚刺激、嗅覚刺激、触覚刺激などによる反応、または鈍感さ、鈍感さ	<ul style="list-style-type: none"> 感覚刺激により注意・注目や言動、感情、思考に影響を受ける場合がある 視覚刺激の影響 ・聴覚刺激の影響 触覚刺激の影響 ・味覚刺激の影響 嗅覚刺激の影響 	<ul style="list-style-type: none"> 生活空間・環境を整備する 刺激の統制をする 自己調整できるように工夫をする 感覚的な活動を生活の中に組み込む 	
微細運動・粗大運動 手と目の供給の困難さ、手先の不器用さ、緊張のある動き、柔軟さのない体全体の動きなど	<ul style="list-style-type: none"> 運動に必要な、脳のインプットやアウトプットがうまくいかないことで、運動面に影響を及ぼす 不器用さ、目と手の供給の困難さ。体全体を使った行動、道具を使った行動の困難さ 	<ul style="list-style-type: none"> 本人にあわせた道具を活用する 本人にあわせた補助具、手だてを活用する 明確な指示、フィードバックをする ※3 スモールステップで教える 	
感情のコントロール	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感情を一旦コントロールするなどの対策が難しいことがある 自分の感情等の状況を理解することの困難さ 自分の感情コントロールをすることの困難さ 感情等の高ぶった状況から次の活動への切り替えの困難さ 	<ul style="list-style-type: none"> 感情を高める要因を除去したり軽減する 感情を高ぶった状態を周囲や本人が確認できるようにする 感情をコントロールする方法を活用する 習慣を活用する 	

※1) 満足の依存に関しては、今後検証を続ける必要がある。 ※2) 状況による本人の言動、思考に関しては、今後検証を続ける必要がある
 ※3) フィードバック：できたことに対して褒めたり、「いいよ」と伝えたり、できていないことを修正したりする介入

※書籍『フレームワークを活用した自閉症支援』又は『生活デザインとしての個別支援計画ガイドブック』とあわせてご活用ください。
 ※個人、支援チームの実戦の範囲内でご活用ください。講演・セミナー等での活用はご遠慮ください。
 ※この資料は内容の検討を重ね、今後、手直しを続けていきます。